

# コロナ収束花壇に願い

## 鯖江高JRC部デザイン考案

### 「虹」目指し連日水やり

鯖江高JRC部は新型コロナウイルス感染症収束への願いを込め、校内の花壇で虹を表現しようと、色鮮やかな7種類の植物を植えた。全ての花を同時に咲かせるのは難しいが、夏休みも連日水やりをし、手入れに精を出している。

同部は2018年度から、部員が考案したデザインで花壇に花を植えている。19年度は「めがねのまちさばえ」をモチーフとした花壇をつくり、全日本学校関係绿化コンクールで入選を果たした。

本年度は新型コロナウイルス収束を願い、ベゴニアやマリーゴールド、パセリなどで虹を表現しようと計画。6月の休校明け後、種をまいたり苗を植えたりし、計20

コロナ収束を願い、虹を表現した花壇づくりに奮闘中の鯖江高JRC部。7日、鯖江市の同校



0本超の植物をそろえた。いったん6月末〜7月初旬に7色が咲きそろったが、その後は梅雨が長引いたのと、梅雨明け後の猛暑で思うように開花しない時期が続いた。部長の山田智貴さん(3年)は「それぞれの植物は花を咲かせる条

件が異なり、一度に色をそろえる難しさを実感した」と明かす。

それでも8月上旬には何とか赤、オレンジ、黄、青、紫の花が咲いた。部員は夏休みも登校して水やりをしており、山田さんは「一日も早くコロナが収束してほしい」。山本千絵顧問は「去年まで2、3種類の花を育てていたのを一気に増やし、生徒にはいい勉強になっている。休校が続ぎ下準備が大変だったが、チャレンジできて良かった」と話した。(土生仁巳)